

# 2-8

## 生活相談員の仕事って？

### 何でも屋の正体は！？

生活相談員の視点

アセスメント

平成20年度生活相談員スキルアップ研修会 A グループ

徳寿園 生活相談員 折腹 大幸	柿沼 由希美、細谷 誠、保坂 幸、佐々木 稔明
東京都八王子市美山町875-6	秋元 直子、剣持 正美、篠原 達也
TEL：042-651-7751	E-mail：tokujuen@a1.mbn.or.jp
FAX：042-652-1370	URL：http://www.joueikai.jp/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	当グループは東社協の高齢者福祉部会、生活相談員研修委員会が、変化に対応していく人材育成を目的とする「生活相談員スキルアップ研修会」で高い専門性や技術を身につけるために研修を行っている生活相談員8名のグループです。
----------------------------	--

<p>〈取り組んだ課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○1人・2人の職種で、「何でも屋」と言われるように、生活相談員の役割が不明確である。</li><li>○日々の業務に追われ、生活相談員としてのアイデンティティを見失いがちである。</li><li>○他職種と比べて専門性を発揮しづらい。</li><li>○施設によって業務内容がまちまちである。</li><li>○ケアプラン上のアセスメントなど、身体機能や病状に着目したものは存在するが、生活相談員のソーシャルワーク機能に対応したアセスメントが存在しない。</li></ul> <p>このような現状があり、更に、都内の生活相談員の平均経験年数は、4.04年（生活相談員研修委員会 ソーシャルワークビジョン検討小委員会実施アンケート）。中堅層の不在により、サポート体制が確保されず、ソーシャルワーク機能を十分に果たすことが難しい。</p> <p>調整の際に、頭の中での葛藤があるが、それを説明するために文書化されたものがなく、アセスメントで客観的な尺度を文書化し、ツールとして活用できるようにアセスメントが必要だと考えた。</p> <p>⇒新人相談員でも、ソーシャルワーカーとしての役割や、視点を理解できるよう、包括的なアセスメントの重要性を研究する。</p>	<p>〈具体的な取り組み〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○生活相談員を取り巻く現状に関するデータ収集</li><li>○一人の利用者を想定し、生活課題を設定する。</li><li>○設定された主な生活課題の各場面におけるソーシャルワーク課題を設定する。</li><li>○重要なポイントを抽出し、アセスメントシート（原案）を作成する。</li></ul> <p>〈活動の成果と評価〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○経験年数の浅い生活相談員でもソーシャルワーカーの役割を理解できた。</li><li>○生活相談員としての視点が明確になった。</li><li>○他職種との関わりの中で、生活相談員の専門性を発揮できた。</li><li>○利用者・家族のニーズを的確に理解することができた。</li></ul> <p>〈今後の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○業務内でアセスメントツールを活用し、その効果を検証する。</li><li>○他職種に生活相談員の専門性を理解してもらう。</li></ul> <p>〈参考資料など〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○生活相談員業務指針 '08</li><li>○生活相談員研修委員会 ソーシャルワークビジョン検討小委員会の実施アンケート</li></ul>
---	---

【メモ欄】
-------